

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	22	学校名	都留興譲館高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	344	名
スクールポリシー (学力に関するもの)		工業4科では、専門的な知識と技術力を習得し、資格の取得を目指し、コミュニケーション力を育成する。英語理数科では、応用的な学力の習得と、自ら考え判断し行動できる力を育成する。普通科では、基礎的・基本的な学力の定着と向上、自ら考え判断し行動できる力を育成する。						
グラデュエーション ポリシー		工業4科、英語理数科、普通科それぞれの学科の多様で専門性の高いカリキュラムを生かして積極的に学び、様々な個性を持った生徒が相互に切磋琢磨することを通して確かな学力を身につけ、望ましい勤労観や職業観を育み、地域産業を支え、地域社会に貢献できる人材、地元の教育機関と連携・協働して応用的な学力を養い、持続可能な地域社会を作り、国際社会で活躍できる人材を育成する。						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input checked="" type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組
<input type="checkbox"/>	

具体的な取組	
<input type="checkbox"/>	単元の目標を示し、主体的な取り組みができるよう、振り返りシートの作成や活用方法を工夫する。
<input type="checkbox"/>	課題研究や総合的な探究の時間などで、特別活動や授業での学習内容ともかかわる生徒それぞれが主体的に取り組めるテーマを設定し、1年間かけて学びを深められるようにする。
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用をさらに進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を深化させる。
<input type="checkbox"/>	外部の教育機関や地元企業と連携・協働して、生徒が主体的・積極的に活躍できる取り組みをさらに進める。
<input type="checkbox"/>	生徒の実態に合わせた取り組みが進められるように、授業アンケートや学校評価に基づいて、教科内、また、教科や学科の枠を超えて、授業内容について協議したり、課題解決に向けて教員間の理解を深めたりできるような場を設ける。

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	R7中間	R7末
(各校の授業アンケートに基づく)		
1.授業の始めに授業の目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	90.0%	85.0%
2.授業の話し合い、討論、発表などの言語活動の場面で取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	90.0%	85.0%
3.他の人の話や発表に耳を傾けることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	94.0%	87.0%
4.学習内容や取組をノートやワークシート等で記録することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	94.0%	88.0%
5.学習内容を活用したり探究する取組ができた (①強くそう思う, ②そう思う)	89.0%	85.0%
6.単元の終わりなどに、復習と到達度の確認ができた (①強くそう思う, ②そう思う)	78.0%	76.0%
7.家庭学習(課題や予習・副数など)と授業を結び付けて学習できた (①強くそう思う, ②そう思う)	77.0%	73.0%
8.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	76.0%	75.0%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)	
今年度は、単元目標の明確化と振り返り、ICT活用、地域・企業との協働を軸に、生徒の主体性と探究の広がりが見進んだ。また、進学・就職の双方で進路意識が高まり、基礎学力の定着と資格へ挑戦する態度も前進が見られた。一方、英語での発信や工業科の基礎力、探究のフィードバック活用に課題が残る。また全般的に期末評価の値が下がっており、学習の取組に対する慣れや、個人による評価基準の差異があるのではないかと考えられる。次年度はBYOD等を用いた「個別最適な学習×協働的な学び」をさらに深化すること、地域連携をさらに推進すること、資格・コンテストの計画的支援により、学びのさらなる定着と伸長を図るようとする。	

各教科の取組	※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	社会生活の中で必要な言葉についての知識や情報の扱い方を身に付けるとともに、言葉の持つ特質を理解し、適切に使うことができるようにする。	4.4	4.4	社会の中で必要な言葉の知識、特に敬語の使い方や資料の読み取りなどに苦手意識を持つ生徒が多い。言葉の持つ特質、特に古典にかかわる分野を強化する支援が必要である。
	言葉を用いて他者の考えを理解したり、自分の考えを伝えたりする力を高め、創造的・論理的思考力や、共感・想像する力を伸ばす。	4.3	4.4	意欲はあるが、論理的に思考したり表現したりする力はまだ及ばない部分が多い。こちらが与える課題だけでなく、自ら問いを立て、深く掘り下げるような力を養える取組を工夫していきたい。
	言葉を用いて考えたり、伝え合ったりすることの必要性を認識するとともに、目的や場面に応じた適切な言葉遣いができるようにし、読書に親しみ、言語文化にも触れるなどして、自身の国語の力を向上させようとする態度を養う。	4.3	4.4	授業の中で読書をする取組も行ってきたが、ごく短い文章であっても、本を読むこと自体に忌避感を持つ生徒がいる。授業以外の場面で書籍や様々な文化に触れる機会が得られるようにしたい。
地公	地理、歴史、公民に関わる知識を身に付けるとともに、諸資料を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることができる。	4.2	4.4	基本的な知識・技能の定着を図るような指導及び史資料を読み解くためのトレーニングが必要であり、授業の中でこの点を意識する必要がある。
	地理や歴史、現代の諸課題について考察し、表現することができる。	4.2	4.3	見方・考え方を発揮できるような学習課題を設定し、他の生徒と協働的に解決を目指すような授業設計が必要である。
	地理や歴史、現代の諸課題に関心を持ち、日本や他国の文化を尊重することができる。	4.2	4.4	学習事項を現実の社会と結びつけるような探究的な学習を設定していくことが必要である。
数学	数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができる。	3.9	3.9	基本的な知識・技能を身に付けさせるとともに、知識と技能を用いて規則性を見出す力や一般化できる力を向上させる指導が必要である。
	既有知識に新しい知識や多様な考えが加わり、数学的な根拠(定義・定理・公式・証明など)に基づいて思考・判断・表現することができる。	3.9	3.9	生徒が試行錯誤しながら適切に判断し、的確に表現できる力を身につけられるよう、個人活動とグループ活動、ICTの活用などのバランスを考えつつ授業を展開していく必要がある。
	他者からの助言や指摘によって、解答過程を見直したり、様々な視点から問いを捉え直したりして主体的に学習改善を図ることができる。	4.0	4.0	日々の授業や課題を通して、生徒が自ら学習習慣を見直し、自己調整できるような指導ができたため、今後も意欲的に取り組むことができる指導体制を継続していく。
理科	理科における基本的な原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を科学的に捉えたり、原理・法則に則って解釈したりする技能を身に付けることができる。	4.3	4.3	引き続き、基礎的な内容を反復して取り組む場面を設定することで、基本的な知識や技能を身につくような授業を行っていく。
	学習した事柄について、他者と積極的に議論したり他者の考えについて理解を深めたりすることができる。	4.2	4.2	単元に関する本質的な問いを軸に、授業中の対話の時間を増やせるよう、授業の取り組みを精査していく。
	理科に関する諸現象に関心を持ち、科学的な考えに基づき探究することができる。	4.4	4.4	実験やICTを利用することで、自然の事物や現象をより身近に感じ、好奇心を育む授業展開を行っていく。
英語	英語に関する興味を持ち、英語を通して異文化を理解しながら、自ら意欲的積極的に学ぶことができる。	4.1	4.1	日々の授業やALTの関わりを通して、生徒が英語に関する興味を深めたり異文化を理解したりすることができたが、意欲的かつ積極的に学ぶ姿はまだまだ伸ばす必要がある。
	学習した英語を使って、他者と積極的にコミュニケーションを図ったり他者への理解を深めたりすることができる。	4.1	4.1	学習事項に紐づいた質問と回答を行うペアワークにおいては、積極的に発言する姿勢が多く見られた。今後は、自分で質問を考えたり、既習事項を活かしたコミュニケーションを行ったりする時間を増やしていく。
	学んだことや体験したことを英語で発表したり、伝えたりすることができる。	4.1	4.1	学んだことについては考えをまとめ発表しやすかったように思われるが、体験をまとめて発表することには課題が残るので、自分の体験を伝えていけるように指導していく。
芸術	芸術の各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けることができる。	4.6	4.5	各科目の特質を生かし、意図に基づいて表現するための、幅広い技能を身に付ける実技練習を行う。生徒自身の振り返りを活用しながら継続的に学習を進める。
	創造的な表現を工夫する表現力・判断力や、芸術の良さや美しさを味わう思考力を身に付けることができる。	4.6	4.4	表現を工夫する力や、芸術の良さや美しさを味わう、幅広い能力を身に付ける課題や鑑賞活動を行う。また、鑑賞と制作を連動させながら、自身の成長を実感できるよう取り組む。
	芸術を愛好する心情や、主体的に芸術の知識、技能、表現力などを習得する態度を養うことができる。	4.6	4.4	教材を工夫し、芸術を愛好する心情や、主体的に幅広い知識、技能などを習得する態度を養っていく。授業内だけでなく実生活でも、広く観察する目を養う。
家庭	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、技能を身につけることができる。	4.7	4.7	知識が断片的にならないように生活全体を関連づけた指導の工夫・実習時間の確保と技能の個人差への対応・消費者教育・金融教育の具体的実践力の育成
	多様な視点から生活をとらえ、問題点を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践・改善・考察したことを論理的に表現し、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養うことができる。	4.6	4.6	探求型学習活動の時間の確保やレポートや発表活動の質の向上、より良い選択を考える学習、自分の考えを言語化し他者と共有する力の育成を図る
	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画し、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的態度を養う。	4.7	4.6	生活と学習内容を結び付ける導入の工夫、振り返り活動の充実、成功体験を積ませる授業設計を心がける、家庭・地域との連携の強化、失敗から学び改善しようとする姿勢の育成
保体	健康に生活していくための知識を学び、運動の多様性や体力の必要性を理解し、生涯にわたり健康を保持増進するための技能を身につける。	3.8	3.9	健康で豊かな生活を送るための知識を学び、実際に実生活で活かす技能を身につける。
	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、解決に向けて、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	3.7	3.8	運動や健康についての自他の課題に対して、疑問をもったり、考えたりすることで、解決に向けての思考力、判断力を身につける。
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、体力の向上や健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを継続するための資質能力を育てる。	3.9	4.0	体力の向上や健康の保持増進を目指し、粘り強く運動に取り組んだり、継続して体を動かしたりすることによって、豊かなスポーツライフを送るための資質能力を育む。
情報	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付ける。	3.9	3.9	基本的なタイピング能力を高めるとともに、情報発信のモラルや簡単なプログラミングを習得させる。
	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かす。	3.9	3.9	情報リテラシー能力や情報活用能力を高め、情報との適切な関わり方を身につけさせる。
	自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。□	3.9	3.9	情報の基本的なスキルを身につけ、情報発信の能力を高めさせる。
理数探究	基本的な探究の手法や思考方法などを体系的に理解するとともに、事象を分析、調査、考察する技能を身に付けることができる。	—	4.0	生徒がBYOD端末をはじめとしたさまざまなツールを使い、探究を深く広く進めることができるような環境づくりを推進する。
	探究により得た新たな知識や多様な考えを、科学的な根拠に基づいて思考・判断・表現することができる。	—	4.0	現在、探究の途中経過を評価しているが、フィードバックしたことが生徒の探究にあまり生かされない現状があるので、今後の課題としてさらに推進していく。
	協働の学びを通じて探究の過程を見直したり、様々な視点から問いを捉え直したりして主体的に探究に取り組むことができる。	—	4.0	生徒の様々なニーズに応じた探究分野の後押しができるような、より多岐にわたる専門性をそそえた指導体制を整えたい。

